

### 平成25年度 再評価対象事業一覧表

平成25年6月7日作成

都計-1 (一括)	事業計画							再評価 の 理由	再評価の視点										前回審 議 年度	対応 方針 (原案)				
	事業名	施設名	事業 主体	事業 箇所	事業概要	工 期			事業費 (億円)	事業進捗の状況及び見込み					上位計画への位置づけ、 関連事業の状況	社会経済 情勢の変化	地元等 の意向	費用対効果分析			コスト削減 及び 代替案立案の 可能性の有無			
						着 工	完 了			前年度 迄 事業費	進捗率	用地 進捗率	H25年 度 事業費	H26年 度 以降 事業費				B/C				分析基礎の 要因の変化		
						上段：当初※1 下段：変更				(億円)	(%)	(%) ※2	(億円)	(億円)									当初 ※1	現行
都計-1 (一括)	都市公園事業	百花台公園	県	島原市 雲仙市	事業認可(第2期) A=18.7ha (全体計画A=48.4ha) ・ふれあい広場 (A=5.6ha) ・森の広場(A=6.0ha) ・大芝生広場 (A=2.9ha) ・有明ピクニックの森 (A=4.2ha)	S55	H28	76.3	再評価 後 5年経過	69.7	91.3	99	1.5	5.1	・都市計画区域マスタープラン(平成16年策定)において、 主要な緑地の配置の方針の 中に明記されている。	平成24年度末供用面積 A=42.6ha(供用面積率 88%)	進捗率が 91%と完成間 近となり、残 りの区域の 早期完成が 望まれている。	6.48	2.69	・公園利用 者実績値に よる見直し ・実績に合わ せた事業費 内訳の見直し	代替案の可能性は ない。	H20	継続	
					S55	H28	76.3																	
都計-2 (一括)	街路事業	出島・南山 手地区	市	長崎市	延長 L=1,040m 幅員 W=15m	S58	H23	61.9	再評価 後 5年経過	44.7	72.2	77	1.4	15.8	・十善寺地区密集住宅市街 地整備促進事業(平成17年 度から平成26年度) ・都市計画マスタープラン(平成19 年度)の中に明記されてい る。	・用地補償交渉が難航し、工 期の延長を行う必要が生じ た。市の財政計画等を踏まえ て、H29を完成目標に事業を 進めている。	早期完成が 望まれている。	2.23	1.45	・完成年度 の遅延によ るもの ・算定方法 の変更によ るもの	・可能な限りコスト縮 減を図る。 ・代替案の可能性は ない。	H20	継続	
					S58	H29	61.9																	
都計-3 (個別)	土地区 画整理 事業	高田南土 地区画整 理事業	町	長与町	A=49.8ha 建物移転 257戸 宅地造成 321,413㎡ 道路築造 18,359m 公園、緑地 17,111㎡	S60	H29	252.2	再評価 後 5年経過	217.4	77.3	-	7.4	56.5	・長崎県都市計画区域マス タープラン(H16.5)において、 「市街地整備の目標」として 事業が位置づけられている。 ・長与町都市計画マスター プラン(H23.3改訂)において、 「市街地整備の基本的な方 針」に事業が位置づけられて いる。  <関連事業> 都市計画道路 赤迫線 H14 完成 都市計画道路 道の尾駅前線 H21完成 都市計画道路 高田線 H25 完成予定	・地区内都市計画道路の一 部が完成し、あわせて沿道利 用が進み、また造成が終わっ た宅地について建築が行われ 、団地が形成されてきている。 ・施行者である長与町が進め る他事業との調整等により、 十分な予算が確保ができな いため工期延長。 ・工事発注を細分化せざるを えなかったこと、残土処理の 変更等により事業費増額。 ・将来交通量の減少と算定マ ニュアルの改訂にともなう便 益算定係数の変更により、B /Cが減少。	早期完成が 望まれている。	2.09	1.21	・将来交通 量の減少 ・算定マニ ュアルの改訂 にともなう便 益算定係数 の変更	・土工事の効率的な 施工。 ・代替案の可能性は ない。	H20	継続	
					S60	H32	281.3																	
道建-1 (一括)	道路改 築事業	一般県道 青方魚目 線 奈摩工区	県	新上五 島町	延長L=2,200m 幅員W=6.0(12.0)m	H16	H22	20.0	事業採 択後 10年経 過	19.3	87.7	81 (87)	1.5	1.2	・長崎総合計画において、 「地域づくりを支えるネット ワークをつくる」に位置付けら れている。	・共有地取得のための時効 取得裁判時間を要した。 ・計画交通量の算定の基礎と なる伸び率が、H21.2の改訂 で将来の交通量が減る予測 となった。	「五島地域 道路整備促 進協議会」よ り早期整備 の要望が行 われている。	2.45	1.57	・計画交通 量の減少 ・事業費の 増 ・完成年度 の遅延	・可能な限りコスト縮 減を図る ・代替案の可能性は 無い	-	継続	
					H16	H26	22.0																	
道維-1 (一括)	道路改 築事業	八幡芦辺 線 (八幡芦辺 工区)	市	壱岐市	延長L=60m 幅員W=9.25m 橋梁上部工L=15.0m 舗装工A=500㎡ 排水工L=100m	H16	H25	9.00	事業採 択後 10年経 過	6.38	83.1	100.0	0.38	0.92	壱岐市振興実施計画に位置 付	観光路線として島内の観光 名所や大型海水浴場の整備 に伴い、大型車両の増加が 見込まれており、それに伴い 既設の道路の改良が望まれ ている。	残区間の早 期完成を求 められてい る。	1.61	1.51	事業費およ び事業工程 の見直しに より完成年 度の遅延が 1年生じた。	可能な限り工法の見 直し、コスト削減に努 めており代替案は無 い。	-	継続	
					H16	H26	7.68																	

※1 2回目以降の再評価の場合、「当初」は「前回」と置き換えている。  
 ※2 用地進捗率の上段は「予算ベース」、下段( )書きは「契約ベース」である。

### 平成25年度 再評価対象事業一覧表

事業計画	事業計画			再評価の理由	再評価の視点										前回審議年度	対応方針(原案)						
	事業名	施設名	事業主体		事業概要	事業進捗の状況及び見込み					上位計画への位置づけ、関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向	費用対効果分析			コスト削減及び代替案立案の可能性の有無					
						工期		事業費(億円)	前年度迄事業費(億円)	進捗率(%)				用地進捗率(%)※2				H25年度事業費(億円)	H26年度以降事業費(億円)	B/C	分析基礎の要因の変化	
						着工	完了															当初※1
港湾-1(個別)	海岸保全事業	福島港平野地区海岸保全施設	県 松浦市 福島町	護岸(消波) 1,065m 護岸(改良) 680m  護岸(消波) 460m 護岸(改良) 570m	H11	H26	8.6	再評価後5年経過	7.7	72.3	-	2.5	0.4	・長崎県総合計画「自然災害等に強い県土づくり」に位置付けられている。 ・松浦市地域防災計画に位置付けられている。	当初計画区間の一部背後地について松浦市が地盤嵩上げ工事を実施している。	浸水被害に対する安全確保のため、海岸事業の早期完成が望まれている。	5.30	5.08	・地盤改良工の追加による事業費の増	・可能な限りコスト削減を図る。 ・地盤改良工法について経済比較の上、決定している。 ・代替案の可能性は無い。	H20	見直し継続
				H11	H26	10.6																
河川-1(一括)	総合流域防災事業	鹿尾川	県 長崎市	改修延長L=3,870m 河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、橋梁架替等	S49	H29	52.0	再評価後5年経過	45.2	86.9	95.2	1.4	5.4	上位計画:長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業:特になし	鹿尾ダムがS62完了、小ヶ倉ダムへの治水機能付加工事がS62完了している。 鹿尾川下流区間の改修計画について住民懇談会との合意が得られた。	早期完成を要望。	1.90	1.41	社会的割引率考慮	可能な限りコスト削減を図る。 代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
				S49	H29	52.0				(91.1)												
河川-2(一括)	総合流域防災事業	三重川	県 長崎市	改修延長L=760m 河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、橋梁架替等	S57	H26	12.2	再評価後5年経過	9.4	77.0	99.0	1.4	1.4	上位計画:長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業:特になし	河道のネック部の拡幅が概ね完了し、計画流量の70%程度の流下能力が確保されており、治水安全度が向上している。	早期完成を要望。	1.21	1.20	資産評価額の時点修正等	可能な限りコスト削減を図る。 代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
				S57	H26	12.2				(95.6)												
河川-3(一括)	広域河川改修事業	中島川	県 長崎市	改修延長L=1,750m 河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、橋梁架替及び左岸パイパス等	S63	H24	98.4	再評価後5年経過	90.9	92.4	98.0	0.0	7.5	上位計画:長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業:長崎市出島復元整備事業、出島表門橋架橋事業	既成市街地であり、人口の変動は少ない。 関連事業との調整が必要となっており、事業期間の延長となっている。	早期完成を要望。	5.83	5.60	資産評価額の時点修正等	可能な限りコスト削減を図る。 代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
				S63	H29	98.4				(99.0)												
河川-4(一括)	総合流域防災事業	江川	県 長崎市	改修延長L=1,006m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤、護岸整備及び橋梁架替等	H3	H28	16.0	再評価後5年経過	13.7	72.1	72.0	0.8	4.5	上位計画:長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業:特になし	特に開発計画はなく、人口の変動は少ない。 事業箇所は軟弱地盤であるが予想外に地盤が悪かったことで、不測の対策費の増、事業期間の延長となっている。	早期完成を要望。	3.23	2.00	社会的割引率考慮 事業費の増	可能な限りコスト削減を図る。 代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
				H3	H31	19.0				(75.6)												
河川-5(一括)	総合流域防災事業	高田川	県 長与町	改修延長L=1,459m 河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、橋梁架替等	H5	H27	35.0	再評価後5年経過	29.3	83.7	90.4	0.7	5.0	上位計画:長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業:特になし	流域以内での宅地開発はあるが、はん濫区域内の人口の変動は少ない。 用地交渉が難航しており、事業期間の延長になっている。	早期完成を要望。	5.04	5.00	資産評価額の時点修正等	可能な限りコスト削減を図る。 代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
				H5	H32	35.0				(75.8)												
河川-6(個別)	総合流域防災事業	仁反田川	県 諫早市	改修延長L=900m 築堤工、護岸工、橋梁水門等	S58	H25	30.0	再評価後5年経過	18.4	61.4	100.0	0.7	10.9	上位計画:長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業:特になし	特に開発計画は無く、人口の変動も少ない。 治水安全度上、狭窄部となる鉄道橋架替に伴う鉄道事業者との協議の進捗が図れなかったため、事業期間の延長となっている。	早期完成を要望。	1.24	1.07	社会的割引率考慮	可能な限りコスト削減を図る。 代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
				S58	H30	30.0				(100)												

※1 2回目以降の再評価の場合、「当初」は「前回」と置き換えている。  
 ※2 用地進捗率の上段は「予算ベース」、下段( )書きは「契約ベース」である。

### 平成25年度 再評価対象事業一覧表

平成25年6月7日作成

河川	事業計画							再評価の理由	再評価の視点					前回審議年度	対応方針(原案)								
	事業名	施設名	事業主体	事業箇所	事業概要	工期			事業進捗の状況及び見込み							上位計画への位置づけ、関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向	費用対効果分析		コスト削減及び代替案立案の可能性の有無		
						着工	完了		事業費(億円)	前年度迄事業費(億円)	進捗率(%)	用地進捗率(%)※2	H25年度事業費(億円)						H26年度以降事業費(億円)	B/C			
																				当初※1		現行	
					上段：当初※1																		
河川-7(一括)	総合流域防災事業	山田川	県	雲仙市	改修延長L=1,000m 護岸工、道路橋、鉄道橋、堰等	H15	H25	17.0	再評価後5年経過	8.5	50.0	72.6 (96.3)	0.7	7.8	上位計画：長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業：特になし	家屋資産の増加により、便益の増加。治水安全度上、狭窄部となる鉄道橋架替に伴う鉄道事業者との協議の進捗が図れなかったため、事業期間の延長となっている。	早期完成を要望。	3.92	5.37	資産評価額の時点修正等	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					H15	H30	17.0																
河川-8(一括)	総合流域防災事業	佐々川	県	佐々町	改修延長L=6,230m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤工、護岸工、橋梁工等	S36	H23	69.1	再評価後5年経過	65.3	85.9	96.7 (94.0)	0.3	10.4	上位計画：長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業：並行する道路改良事業と調整中	西九州道路の整備に伴って、企業の立地も見られる。未整備箇所の下流右岸L=2kmが着手見込となり軟弱地盤対策(基礎部)に伴う事業費増及び関連事業との調整のため事業期間の延長となる。	早期完成を要望。	11.70	10.44	資産評価額の時点修正等	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					S36	H30	76.1																
河川-9(個別)	総合流域防災事業	日宇川	県	佐世保市	改修延長L=2,002m 河積確保に伴う河床掘削、築堤工、護岸工、橋梁工等	S43	H30	25.0	再評価後5年経過	14.4	57.6	84.3 (87.3)	0.3	10.3	上位計画：長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業：特になし	河道拡幅は完了しており、全川にわたり、計画流量の80%程度の流下能力が確保されており、治水安全度が向上している。	早期完成を要望。	15.83	4.76	社会的割引率考慮	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					S43	H30	25.0																
河川-10(一括)	総合流域防災事業	大明寺川	県	西海市	改修延長L=1,800m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤工、護岸工、橋梁工等	S55	H24	23.6	再評価後5年経過	25.8	87.3	100.0 (100)	1.0	2.8	上位計画：長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業：特になし	特に開発計画もなく、人口の変動も少ない。残工事である河床掘削土の処分地変更に伴い工法見直しによる事業費増及び事業期間延長。	早期完成を要望。	2.41	1.78	社会的割引率考慮 事業費の増	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					S55	H27	29.6																
河川-11(一括)	広域河川改修事業	日野川	県	佐世保市	改修延長L=1,840m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤工、護岸工、橋梁工等	H3	H27	90.0	再評価後5年経過	92.3	89.2	93.5 (94.0)	3.4	7.8	上位計画：長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業：市都市下水路事業と調整あり	H21下・中流域が市街化区域となり河川沿いの宅地化が進んでいる。中流域橋梁架替(3橋)に伴う補償等の増及び県・市道の迂回計画の段階的な施工に伴う事業期間の延長。	早期完成を要望。	3.90	2.78	事業費の増 事業期間の延期	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					H3	H32	103.5																
河川-12(一括)	総合流域防災事業	田川	県	対馬市	改修延長L=1,680m 河道拡幅に伴う河床掘削、護岸工、橋梁工等	H14	H25	10.7	再評価後5年経過	6.4	60.3	90.2 (80.7)	0.1	4.2	上位計画：長崎県総合計画9-1-5(自然災害等に強い県土づくり) 関連事業：特になし	特に開発計画もなく、人口の変動も少ない。用地取得難航に伴う事業期間延長。 ※事業認定準備に着手	早期完成を要望。	5.71	7.64	資産評価額の時点修正等	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					H14	H29	10.7																
河川-13(一括)	都市基盤河川整備事業	江川川	市	長崎市	改修延長L=2,530m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替	S56	H30	31.6	再評価後5年経過	27.3	86.4	86.1 (55.0)	0.3	4.0	上位計画：長崎市第四次総合計画(前期基本計画)において「災害に強いまちづくりをすすめるため、河川の整備を実施する」と位置付けされている。 関連事業：特になし	特になし	事業に理解があり、協力的である。	4.08	3.40	・事業所及び従業員数の基礎数量の減少	可能な限りコスト削減を図る。代替案と比較したうえで最適案と判断した。	H20	継続
					S56	H30	31.6																

※1 2回目以降の再評価の場合、「当初」は「前回」と置き換えている。  
 ※2 用地進捗率の上段は「予算ベース」、下段( )書きは「契約ベース」である。

### 平成25年度 再評価対象事業一覧表

事業名	施設名	事業主体	事業箇所	事業概要	工期			再評価理由	事業進捗の状況及び見込み					再評価の視点					前回審議年度	対応方針(原案)			
					着工	完了	事業費(億円)		前年度迄事業費(億円)	進捗率(%)	用地進捗率(%)※2	H25年度事業費(億円)	H26年度以降事業費(億円)	上位計画への位置づけ、関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向	費用対効果分析				コスト削減及び代替案立案の可能性の有無		
																	分析基礎の要因の変化	B/C					
					上段：当初※1 下段：変更													当初※1			現行		
砂防-1(一括)	地すべり対策事業	白井岳地区	県	松浦市調川町	集水井工9基 集水ボーリング工137本(L=7,810m) 横ボーリング86本(L=4,045m) 杭工176本(L=3,775m) アンカー工125本(L=3,065m)	S57	H25	11.0	再評価後5年経過	9.42	67.3	98	0.4	4.2	長崎県総合計画の中で、「安全・安心で快適な地域をつくる」に関する政策の中で土砂災害防止施設整備が挙げられている	・受益戸数の変化があり、前回387戸から、今回390戸へ増加している ・Aブロックにおいて近年地すべり活動が顕著となり、地すべりによる被害が多くなることが想定され事業量が増加するため。	地すべり対策工事の早期完成が望まれている。	2.16	2.24	・受益戸数の変化によるもの ・事業量の増によるもの	・可能な限りコスト削減を図る。 ・代替案の可能性はない。	H20	継続
				S57	H30	14.0	(98)																
砂防-2(一括)	地すべり対策事業	大屋地区	県	佐世保市鹿町町	集水井工5基 集水ボーリング工75本(L=3,210m) 横ボーリング工120本(L=3,185m) 杭工233本(L=3,703m) アンカー工455本(L=4,600m) 法面工12,839㎡	S48	H24	15.5	再評価後5年経過	16.0	86.5	100	0.03	2.5	長崎県総合計画の中で、「安全・安心で快適な地域をつくる」に関する政策の中で土砂災害防止施設整備が挙げられている	・Cブロックにおいて地下水位の低下を実現しているが住宅地と隣接しており、杭打工を追加し安全度を高める必要が生じたことによる事業費の増と工期の延期。	地すべり対策工事の早期完成が望まれている。	3.46	2.63	・事業量の増によるもの	・可能な限りコスト削減を図る。 ・代替案の可能性はない。	H20	継続
				S47	H28	18.5	(100)																
砂防-3(個別)	地すべり対策事業	里地区	県	松浦市志佐町	集水井工9基 集水ボーリング工155本(L=5,980m)排水ボーリング工10本(L=581m) 横ボーリング86本(L=3,560m) 杭工311本(L=7,803m) アンカー工72本(L=866m) 隧道工1,133m	S56	H25	12.2	再評価後5年経過	11.0	52.1	100	0.5	9.6	長崎県総合計画の中で、「安全・安心で快適な地域をつくる」に関する政策の中で土砂災害防止施設整備が挙げられている	・受益戸数の変化があり、前回59戸から、今回88戸へ増加している ・Aブロック上部すべりについて地下水位の低下を実現しているが、現在もなお地すべり変動が確認されており杭打工を追加し事業量が増加するため。	地すべり対策工事の早期完成が望まれている。	2.54	1.52	・受益戸数の変化によるもの ・事業量の増によるもの	・可能な限りコスト削減を図る。 ・代替案の可能性はない。	H20	継続
				S56	H29	21.1	(100)																

※1 2回目以降の再評価の場合、「当初」は「前回」と置き換えている。  
 ※2 用地進捗率の上段は「予算ベース」、下段( )書きは「契約ベース」である。